

原市民センターだより

3 月号

令和 8(2026)年 3月 1日 発行 第 490号

「人権川柳表彰式」

～ともに考え
ともに生きる～

原風録Ⅱ 「ピックルボール」

所長 平山和弘

「ピックルボール」というスポーツをご存知ですか。まだ、ご存知でない方が大半ではないかと思えます。実は、私もピックルボールというスポーツを知ったのは、ほぼ一年前で、最初にその言葉を聞いたとき、「何？」と思わず言ってしまいました。

このスポーツは、アメリカが発祥の地で、「ピックル」という名前は、このスポーツを考案した家族の愛犬にちなんだ名前で、コート内にある「ノンボレーゾーン」も、通称「キッチン」と言われ、その名の由来は、「愛犬のピックルがキッチンに入ると料理をしている人の邪魔になる」など、諸説あるようです。アメリカでは、今最も急成長しているスポーツと言われ、日本でも、2015年に日本ピックルボール協会が設立され、近年国内でも注目されているそうです。

ピックルボールは、テニス、卓球、バドミントンの要素を合わせたラケットスポーツです。コートのサイズは、バドミントンのコートと同じで、ボールは穴の開いた硬いプラスチック製の物です。ピックルボールは、体育館でもアウトドアのコートでも出来ます。ピックルボールは、テニスをスローにしたようなもので、テニスボールの約1/3の速さで飛ぶと言われています。ゲームは、11点先取したら終了となり、通常3ゲームで行われ、2ゲーム先取した方が勝利となります(シングルスとダブルスがありますが、ダブルスが主流)。

緩すぎず、激しすぎずちょうど良い運動量で、安全にプレーできるので、子どもからシニアまで楽しめる生涯スポーツです。

私も始めてもうすぐ1年になろうとしています。週一回のペースで行っていますが、そのクラブには、定年退職をされたシニアの方、現役の中堅層の方など、様々な経歴をおもちの方がおられ、そのクラブを通して多くの出会いもあり、毎週楽しくプレーさせてもらっています。

事業報告 ◆はらきっず「もちつき」◆

1月28日(水)「はらきっず」では、びち、ぶらすとともに「おもち」をつきました。原でとれた「もち米」を使った「おもち」に、畑でとれた大豆と小豆で作った「きなこ」と「あんこ」をまぶしていただきました。地産地消の恵みをみんな笑顔でほおばっていました。



もちつきに、実際は「杵」と「臼」は使いませんが、部屋の真ん中に設置した「杵」と「臼」で「もちつきごっこ」をしました。歓声が部屋中に響き渡りました。にぎやかで楽しいひとときでした。

手作りあんこ&きなこ



★第2回原地区フォトコンテスト展示審査中

今回で2回目となりますが、12点の応募がありました。是非来館していただき、自分が素敵だと思える作品に投票を！
審査員は、来館したあなたです。
3月5日(木)までが、審査期間となっています。

◆令和7年度 人権川柳 優秀作品の紹介◆

一般の部8名、23句、小学生の部66名、193句、合計74名、216句の応募がありました。ご応募いただいた皆様には、本事業へのご理解ご協力に感謝申し上げます。中国新聞社の中国柳壇選者をされている弘兼秀子先生に毎年審査をお願いしています。



表彰式後は、四季が丘 Brass Band によるミニコンサートを行いました。予定した曲目をすべて演奏した後もアンコールに心えて「銀河鉄道999」も演奏してくださいました。総勢40名近い聴衆の前で迫力のあるとても素敵なコンサートでした。

◆一般の部 特選(1名)◆
(敬称略)
思いやり 心の糧の 暖かき
上川 芳子

◆一般の部 入選(3名)◆
戦いの 終結祈り 鶴を折る
藤井 篤子

どこまでも 祈りの心 永遠に
西 光二

きこひみて 誰じつなへか この記憶
平山 和弘

◆小学生の部 特選(4名)◆

次世代に つないでいこう この思い
6年 藤島 壮介
笑顔がね みんなをつなぐ 始まりだ
5年 津田 梨帆
みんなでね 心をあわせ きょうりよくだ
2年 村上 嗣莉
ごめんねは ともだちつなぐ ごぼばよ
1年 山根 慎平

◆小学生の部 入選(12名)◆

いのちつよ 世界平和の 来る日まで
6年 井戸川 奏太
自分の手 あわせて心 しずめよう
6年 柏木 希子
手をつなぎ みんなで守る かんぎょうを
5年 末川 芽伊
やめようね あやしいサイト ひらけのは
5年 玉田 武
祈りたい 世界の平和 守るため
4年 村上 心音
みんなでね 心をつなぎ 伝え合おう
4年 藤島 堇
仲良くな 心をつないで 友だちだ
3年 小村 一奏
原地区の 自然の力 まもろうよ
3年 加藤 輪太郎
せんそうが おきないように ねがうほく
2年 藤本 昂生
木はでかい まもってくれる ありがたい
2年 渡邊 寛大
たのしいな みんななかよし おまかせ
1年 西 彩葉
おばあちゃん わたしがまもる とくしゅを
1年 藤原 禔

【選者】全日本川柳協会 常任幹事

弘兼 秀子 先生

【講評】

川柳の基本は五七五の十七音です。今回この基本が守られていない句が多くありました。五七五になるよう何度も読んで工夫してみてください。また、ただの説明ではなく、見たり聞いたりしたことをどう感じたかを表現することが大切です。

入選句からは、思いがしっかり伝わってきました。読んだ人とも心が通じ合える句となっていて感動しました。この調子で折にふれ、川柳を楽しんでください。物を見る目も変わってきます。



～3月の行事予定～

3日(火)	いきいき百歳体操(山下先生)	10:00～
4日(水)	はらきっず・ぷち	9:45～
	はらきっず・ぷらす	14:45～
10日(火)	いきいき百歳体操	10:00～
	健康麻雀	13:30～
11日(水)	はらほっとサロン	13:30～
13日(金)	一光大学(修了式)	13:30～
17日(火)	いきいき百歳体操	10:00～
24日(火)	いきいき百歳体操	10:00～
	健康麻雀	13:30～
27日(金)	たんぼぼ号(移動図書館)	11:45～
31日(火)	いきいき百歳体操	10:00～

◆休館日： 20日(金) 春分の日

原地区の人口と世帯数(令和8年2月1日現在)

人口：1,370人(-4) 男650人(-3) 女720人(-1)
世帯数：730世帯(+1) ※()は前月比

編集：原市民センター 〒738-0031 廿日市市原 439-2
TEL：39-0227 FAX：39-0314

※センターだよりは、ホームページでもご覧になれます。

<https://www.city.hatsukaichi.jp/site/haras>

検索

【手話通訳・要約筆記】

原市民センター主催の講座で手話通訳、要約筆記が必要な方は、各講座の3週間前にご連絡ください。受付時間 平日の9時から17時まで

☎(0829) 39-0227 FAX:(0829) 39-0314

◇今月のおすすめの本◇ 「ずっと一緒に 盲導犬が老いたとき」

田中真由美/著 ぶんか社

盲導犬が歳をとり「引退」とすると、通常は今まで一緒に暮らしてきたユーザーさんとのせつない別れがあります。でも、著者と夫のたもっちゃんは、引退後もたもっちゃんのパートナー「カンちゃん」と「ずっと一緒に暮らしたい」という思いから迷うことなく引退盲導犬とともに暮らす覚悟をしました。ユーザーさんが引退犬と最後まで一緒に暮らすことを希望すると新しい盲導犬は貸与されなくなり、さまざまな不便さ(一緒に電車やバスにも乗れなくなったり、お店に入れなくなったり)を受け入れることを意味します。それまでとは違う「動」の生活から「静」の生活へ移行することになるのです。本書は盲導犬との生活、引退盲導犬と暮らしていく大変さやそこから生まれる喜びをエピソードとしてまとめています。日常のそこそこにある幸せについて改めて感じてみられてはいかがでしょうか。

(図書館の貸し出しは2週間です。)